

1. 経緯

第 73 回国体冬季大会スケート競技会は、本来スケート・アイスホッケーの 2 競技を山梨県開催で調整していました。

しかし、競技施設の都合からアイスホッケー競技のみ他県開催となり、競技視察役員の移動も考慮し、隣県である神奈川県開催が提案され、日体協から日ア連経由で当連盟に打診がありました。

当連盟では、2014 年 7 月の第 1 回理事会において、54 年ぶりの神奈川県開催を受け入れる事を承認し、大会開催に向け始動しました。

遡ること 2 年ほど前から、横浜市市民局および横浜市体育協会の下、神奈川スケートリンク再整備事業が始まり、スケート 3 団体（県スケート連盟、県アイスホッケー連盟、県カーリング協会）のヒアリングもありました。

しかし、予算の関係から、スケート 3 団体の要望も虚しく、選手控室等競技大会に必要な設備が整わない計画でした。

2. 開催に向けて

国体開催には最低でも 2 会場、短期間に大会終了するには 3 会場が望ましく、国際試合も開催できる KOSÉ 新横浜スケートセンターを主会場に、相模原市銀河アリーナと国際規格に新装する神奈川スケートリンク（横浜銀行アイスアリーナ）での開催を計画しました。

日本アイスホッケー連盟および県スポーツ局と共に、新横浜プリンスホテル（KOSÉ 新横浜スケートセンター）、相模原市教育委員会（相模原市銀河アリーナ）、横浜市体育協会（横浜銀行アイスアリーナ）に、上記 3 会場での開催ならびに施設の改善を要望し、現場打合せを重ねてきました。

しかし、残念ながら相模原市教育委員会から平昌オリンピック前のショートトラック大会直前調整会場を理由に辞退され、2 会場での大会開催を余儀なくされました。

横浜市体育協会のリンク再整備事業では常設されないスコアボードを、国体開催に伴い設置することを条件に設置場所耐加重の増量や、オフィシャル本部席設置のための観客席セットバック等交渉を重ねて来ました。

一方で、県スポーツ局内に国体アイスホッケー担当が置かれ、過去開催地である長野県（軽井沢・岡谷）、栃木県（日光）、岩手県（盛岡）から予算等の情報を頂き、県との折衝を重ねてきました。

県外の調査費から始まる予算申請を始め、短期間の開催準備に、国体アイスホッケー担当者各位のご尽力により、県知事を会長とする実行委員会が結成され、総額 7 千万円規模の大会となりました。

3. 大会運営

日本リーグ・アジアリーグの集結シリーズやファイナルシリーズ、国体関東ブロック予選の開催を経験してきましたが、公式練習を含め 1 週間に亘る大会の運営は初めてです。

そのためには、アナウンサーをはじめスコアボード操作員、オフィシャルゲームシート作成者等の延べ 47 試合を運営するオフィシャル要員の育成と確保が必要となります。また、全国から国体レベルの試合を裁けるレフェリー・ラインズマンの派遣確保も必要です。

ジュニアチーム保護者や大学生選手をはじめ、日頃アジアリーグや国際大会で活躍するオフィシャル要員の方々のスケジュール調整から始まりました。

一方でスコアボードの選定には、すでに栃木国体でも導入実績があり、KOSÉ 新横浜スケートセンターでも導入されており、その操作にも慣れているダクトロニクス社製の導入を要望しました。

4. 競技結果

参加 27 都道府県、本部役員 178 名、監督・選手 643 名を迎え、2018 年 1 月 26 日(金)から 27 日(土)2 日間の公式練習を皮切りに、1 月 28 日(日)から 2 月 1 日(木)まで本大会を開催し、観客動員数 12,942 名の大会となりました。

特に、大会初日の神奈川県 VS 愛知県成年の試合では、全試合を通じ最大の 800 名を越える大観衆が横浜銀行アイスアリーナ押し寄せ、大声援の下 好ゲームが展開され、大会期間中 1 日の最高観客数 2,365 名を記録しました。

地元優勝を目標としてきた国体成年チームは、準々決勝で埼玉県に惜敗し、残念ながら 7 位で終わりました。

国体少年チームは準決勝で北海道に破れ、続く 3 位決定戦で青森県と争い、最終 4 位を獲得しました。

総合成績では、1 位:北海道、2 位:青森県、3 位:埼玉県、4 位:栃木県、同 4 位:神奈川県、6 位:東京都、7 位:長野県、8 位:宮城県、同 8 位:福井県となりました。

5. 最後に

横浜市体育協会のご理解ご協力を得て、横浜銀行アイスアリーナにスコアボードを常設設置することができました。

結果として、当連盟の所有物として仮設置していたスコアボードについてメーカーとの売買契約を結ぶとともに、今後のメンテナンスや将来の更新設置に向け適正使用料を収受し、連盟会計内に別口座を設け管理していく予定です。

軽度の負傷事案はありましたが、事故なく無事大会が終了することができました。オフィシャルスタッフの皆様を始め、関係各位の絶大なるご尽力に感謝申し上げます。

